

1 単元名 交通安全 (イ) 交通社会に必要な資質と責任

2 単元の目標

- 交通安全について、課題解決にむけての話し合いやまとめる活動に意欲的に取り組むことができるようにする。(関心・意欲・態度)
- 交通安全について、調べたことをもとに日常生活で課題を見つけたり、解決の方法を考えたりすることができるようにする。(思考・判断)
- 交通事故を防止するには、車両の特性の理解、適切な行動、生命を尊重する態度、交通環境の整備などがかわることを理解できるようにする。(知識・理解)

3 単元について

(1) 生徒の実態

対象生徒は、第1学年**科*組男子*人、女子*人の計*名である。授業に臨む姿勢は良好である。しかし、*月に行われた定期考査では自由記述の問題で正解率が*%と低い結果となり、知識を活用して解答することが苦手であることがわかった。*月に保健授業に関する意識調査を行ったところ、約*割の生徒が授業に積極的に取り組んでいると回答しており、授業に臨む意識が高いことがわかる。また、*割を超える生徒が保健で習った知識を正しく身につけられていると回答しており、基礎的な知識を理解、習得できているという自覚があることがわかる。一方、自分の考えを相手に説明する、自分の考えをまとめるなどの、要約、説明、論述といった知識を活用する活動については、約*割の生徒が思わないと回答しており、本校生徒にとって大きな課題となっている。

(2) 指導観

生徒が日常生活の中で身近に感じる内容を題材として取り上げ、生徒の興味・関心と課題解決への意欲を高める。具体的には、高等学校第1学年保健「現代社会と健康」交通安全において、生徒たちの通学路で起きた実際の事故や自転車、原動機付自転車で通学する際に事故が起りやすい場を題材として取り上げる。その際、同じ通学路を通っている生徒でグループ活動を行うことにより、さらに意欲的に活動できるようにする。

4人1組のグループ学習を行う。その際、自分の考えを述べたり、説明したりすることが苦手な生徒のためにグループ学習の前にペア学習を行い、発言しやすい環境づくりを行う。グループ学習では、特にKJ法を用いて、与えられた情報を分析し、自らの考えや集団の考えを発展させ、考えをまとめるという学習活動を行う。生徒が学習の流れを理解しやすいように、具体的な手順として、「①情報を分析し、自らの考えを説明できるようにする。②グループ活動で自分の意見を発表したり、友人の意見を聞いたりして、考えを発展させる。③考えを文章にまとめる。」の3つの手順で活動を行うように徹底させ、実践していく。

4 単元の評価規準（学習活動に即した評価規準）

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
学習に即した評価規準	<p>①課題解決のために話し合い活動やまとめる活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>②交通安全について関心を持ち、進んで課題を見付けようとしたり、事故防止に対する意識を高めたりしている。</p>	<p>①交通事故の事例について原因を考えたり、情報を分析したりしている。</p> <p>②交通安全に関する知識を活用して自らの生活に役立てようとしている。</p>	<p>①運転者には資質と責任が必要なことについて理解し、発言したり、記述したりしている。</p>

5 指導と評価の計画（3時間扱い）

時	主なねらい，学習活動	評価計画		
		関	思	知
1 交通事故の現状	<p>○交通事故が起こるには3つの要因が関わっていることを理解する。</p> <p>1 本時の説明 2 若者の交通事故が多い理由を考える（ペア学習） 3 危険予測テストを行う 4 事故が起こる3つの要因について（グループ学習） 5 本時のまとめ 6 ワークシートに感想を記入 7 グループでの発表</p>	①		①
② 交通社会で必要な資質と責任	<p>○交通事故の起こる要因を把握し、危険を早めに予測することが事故防止につながることを理解する。</p> <p>1 前時の振り返り 2 本時の説明 3 交通事故の事例から事故の原因を探る（グループ学習） 4 危険予測について（グループ学習） 5 本時のまとめ 6 ワークシートに感想を記入 7 発表する</p>		①	
3 安全な社会づくり	<p>○安全な交通社会をつくるために様々な対策がなされていることを理解する。</p> <p>1 前時の振り返りと本時の説明 2 安全な交通社会づくりのための対策を考える。 3 本時のまとめ 4 ワークシートに感想を記入 5 危険予測テストを行う。</p>	②	②	

6 本時の指導（2時間目）

(1) 目標

交通事故の事例について原因を考えたり、情報を分析したりしている。 (思考・判断)

(2) 準備・資料

スライド、ワークシート、付せん

(3) 展開

	学習活動・内容	指導上の手立て・評価
はじめ 10分	<p>1 あいさつ、出欠の確認、服装指導を行う。</p> <p>2 前時の振り返りを行う。 ・交通事故の現状 ・事故が起こる3つの要因</p> <p>3 ペア学習を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを使い、今回の授業につながる内容を再度学習するために振り返る。 ・交通事故が起こる3つの要因を確認し、本時の授業で重要であることを確認する。 ・復習のための簡単な事例をあげ、ペアで話し合わせる。 ・本時の学習活動は前回の学習から習得した知識を活用し、自ら考え課題解決していくことがねらいであることを理解させる。 ・4人1組のグループをつくり、付せん、グループワークシートを配布し、前回学習した3つの要因に分類する作業を行う。 ・グループで出た意見は否定せず、できるだけ多くの意見が出るように伝える。 ・グループ活動で自分の意見を発表したり、友人の意見を聞いたりして、考えを発展させる。 ・主体要因、環境要因、車両要因の3つの要因に出た意見を付せんを使い分類していく。 ・事故が起きてしまった原因をワークシートに文章として書きだし、説明できるように促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>交通事故の事例について原因を考えたり、情報を分析したりしている。(思考・判断)</p> </div>
なか 35分	<p>4 本時のねらいを確認する。</p> <p>5 交通事故の事例から事故の原因を探る。(KJ法) (1) 自らの考えで事故を分析する。 (2) ブレインストーミングを行い、付せんに原因を書き出していく。 (3) 出てきた意見を3つの要因に分類していく。 (4) ワークシートに文章化する。</p> <p>6 危険予測を行う。 (1) 個人で考え、危険を予測する。 (2) グループで意見を出し合い、考えを発展させる。 (3) ワークシートに文章化する。</p>	
おわり 5分	<p>7 本時のまとめをする。 (1) 本時の感想をワークシートに記入する。</p>	